

小学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教職員研修センター

研究主題および基本的な考え

生きて働く力を育てる指導の工夫

1 主題設定の理由

総合的な学習の時間が本格実施されて3年が経過した。現在、各学校は地域の自然や文化、人的・物的資源を活用し、各学校の特色ある教育活動を生かした授業を実践している。「平成15年度総合的な学習の時間の成果に関する調査研究」（東京都教職員研修センター研究部研究課）では、総合的な学習の時間を通して、友達によさに気付くことや学習に対して主体的に取り組むことなど、様々な力が身に付いていることを子どもたちが感じていると報告されている。さらに、同調査研究では、教員の指導が多くあったと感じている子どもたちの方が、様々な力が身に付いたと強く感じていることから、子ども一人一人の実態に即した指導が重要であるという報告もされている。

一方、総合的な学習の時間の課題として、子どもたちの学習意欲を持続させることや、各教科等との関連を図り、各教科等で学んだ力を必要感をもって使っていくこと、見通しをもった活動をしていくことなども挙げられる。また、時間をかけて考え、試行錯誤しながら学習を進めることや、自分の学習活動についてじっくり振り返り、他教科等を含め次の学習に生かすことについても課題がある。平成15年12月の学習指導要領の一部改正においても、「各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること」が、ねらいに付け加えられた。

総合的な学習の時間の学習活動では、子どもたちの主体性や興味・関心を生かした体験的な学習、問題解決的な学習が行われる中で、学習場面や状況に応じた教師の適切な指導の一層の充実が必要である。一人一人の学習の実態に応じて、適切な指導を行うことにより、自ら学び自ら考える力、学び方やものの考え方等を子どもたちがしっかりと身に付け、さらに学習や生活において身に付けた力が生かされ総合的に働くようにすることができると本部会では考えた。

そこで、本部会においては、「個に応じた指導の一層の充実」という教育研究員共通研究テーマを受け、総合的な学習の時間において、一人一人の学習場面や状況に応じた教師の適切な指導の一層の充実を図ることにより、子どもたちに生きて働く力を育てていくことを目指し、研究主題を「生きて働く力を育てる指導の工夫」と設定した。

目 次

研究主題および基本的な考え

1 主題設定の理由	2
2 研究仮説と研究内容	3
3 研究構想図	5

主題に迫るために

1 課題意識を高める課題設定場面の指導の工夫	6
2 追究活動の充実を図る情報収集と整理の工夫	8
3 イメージマップを活用した子どもの見取りと指導への生かし方	10

実践事例

・事例1 「はっしん！ ぼくらの西池袋」(第3学年)	12
(課題意識を高める課題設定場面の指導の工夫)	
・事例2 「わたしがみつけた輝いている人～オリンピックにかける夢～」(第6学年)...	16
(追究活動の充実を図る情報収集と整理の工夫)	
・事例3 「めざせ！住みよいわたしたちの町 ～自分に何ができる？人にやさしい町づくり～」(第6学年)	18
(追究活動の充実を図る情報収集と整理の工夫)	
・事例4 「羽村のいいところ、知らせ隊」(第3学年)	20
(イメージマップを活用した子どもの見取りと指導への生かし方)	

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果	23
2 今後の課題	23

参考資料	24
------------	----

2 研究仮説と研究内容

研究仮説

本部会では、「生きて働く」ことを「教師の適切な指導により、子どもが学習意欲をもち続け、各教科等で学んだ力を発揮して課題解決に向けてよりよく働かせ、学んだ力を発揮して解決することのよさを実感すること」と、とらえた。

生きて働く力を育てるためには、教師の意図的・計画的な指導により、子どもの課題意識を高め、よりよい解決に向けて思考を働かせることが大事であると考えた。そして、思考がよりよく働くことによって、子どもが学習意欲をもち続け、課題解決に向けて、各教科等で学んだ力を発揮して解決に向けてよりよく働かせることができ、そのよさを実感することができるようになると考え、研究仮説を次のように立てた。

子どもの思考がよりよく働く場を意図的、計画的に設定することで、子どもは、学んだ力を目的に応じて関連付け、使うことができるであろう。

研究内容

この研究仮説の実証のために、まず、「生きて働く力」を発揮している子どもの姿を第3・4学年と第5・6学年ごとに「つかむ」「追究する」「広げる」の三つの学習過程で次のように整理した。

「生きて働く力」を発揮している子どもの姿

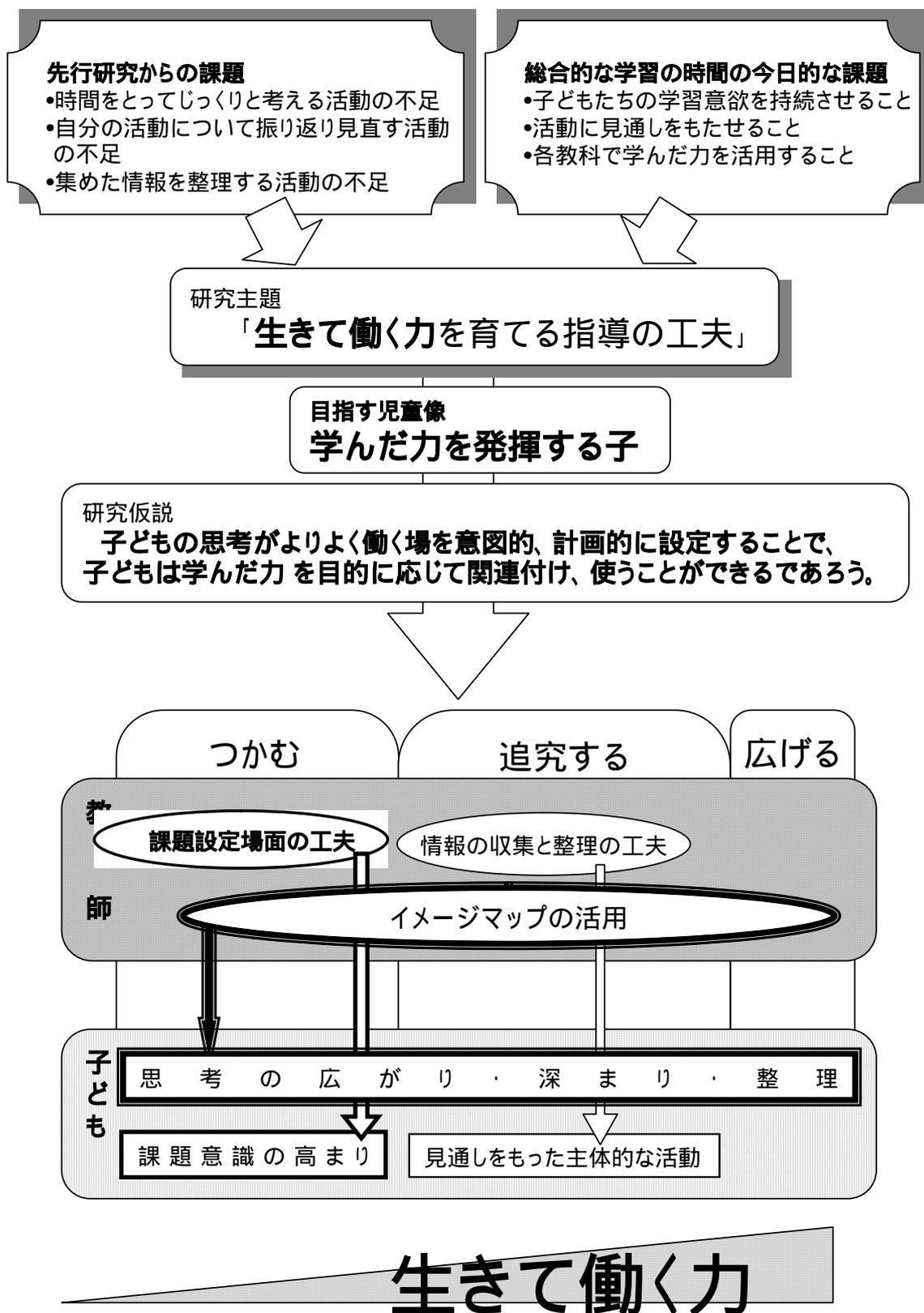
学習過程 学年	つかむ	追究する	広げる
第3・4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの思いをもち、課題を選んだり、見付けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて、身近な人や自然、地域などとかかわりながら学んだ力を使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ力を使ってまとめ発表する。 ・課題解決のよさに気が付き自分に自信をもつ。
第5・6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの思いをはっきりもち、学んだ力を発揮し解決までの見通しをもって課題をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて、人や自然、社会などとかかわりながら、学んだ力を発揮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識し、学んだ力を発揮し、分かりやすくまとめ発表する。 ・自分なりの課題解決を振り返り、自己の成長に気付く。

次に、「生きて働く力」を発揮する子どもの実現のために、子どもが思考をよりよく働かせる場を意図的・計画的に設定することを研究の柱として、以下三つの手だてを提案することにした。

- (1) 総合的な学習の時間において、子どもが学んだ力を生かすためには、子ども自身が自分の課題を明確にしていることが重要である。課題について子どもが明確で魅力あるものに仕立てていくことは、課題設定後に展開される学習に大きく影響する。すなわち、追究場面での充実の鍵がここにあるといえる。そこで、課題設定場面において、意図的・計画的に思考がよりよく働く場を設定し、課題意識を高める学習過程の指導を工夫する。
- (2) 課題意識の高まった子どもが、追究の段階で学習意欲を持続させ、さらに主体的に学習を展開するためには、追究の方向性を子ども自身がしっかりもち、課題解決の具体的な見通しをもつよう指導することが重要である。そこで、情報を集め、整理する活動を通して、子どもが自分自身の学習状況を見つめ直し、学習の見通しをもつための指導の工夫をする。
- (3) また、子どもがどのような思考活動をしているのかを教師が見取ることは、個に応じた指導を行なう上で不可欠である。そこで、児童が各教科等で学んだ力をよりよく発揮させるタイミングを教師が的確に見取り、見取ったことを児童が思考を広げたり深めたりできるよう指導に生かす手だてとしてイメージマップを活用した指導の工夫をする。

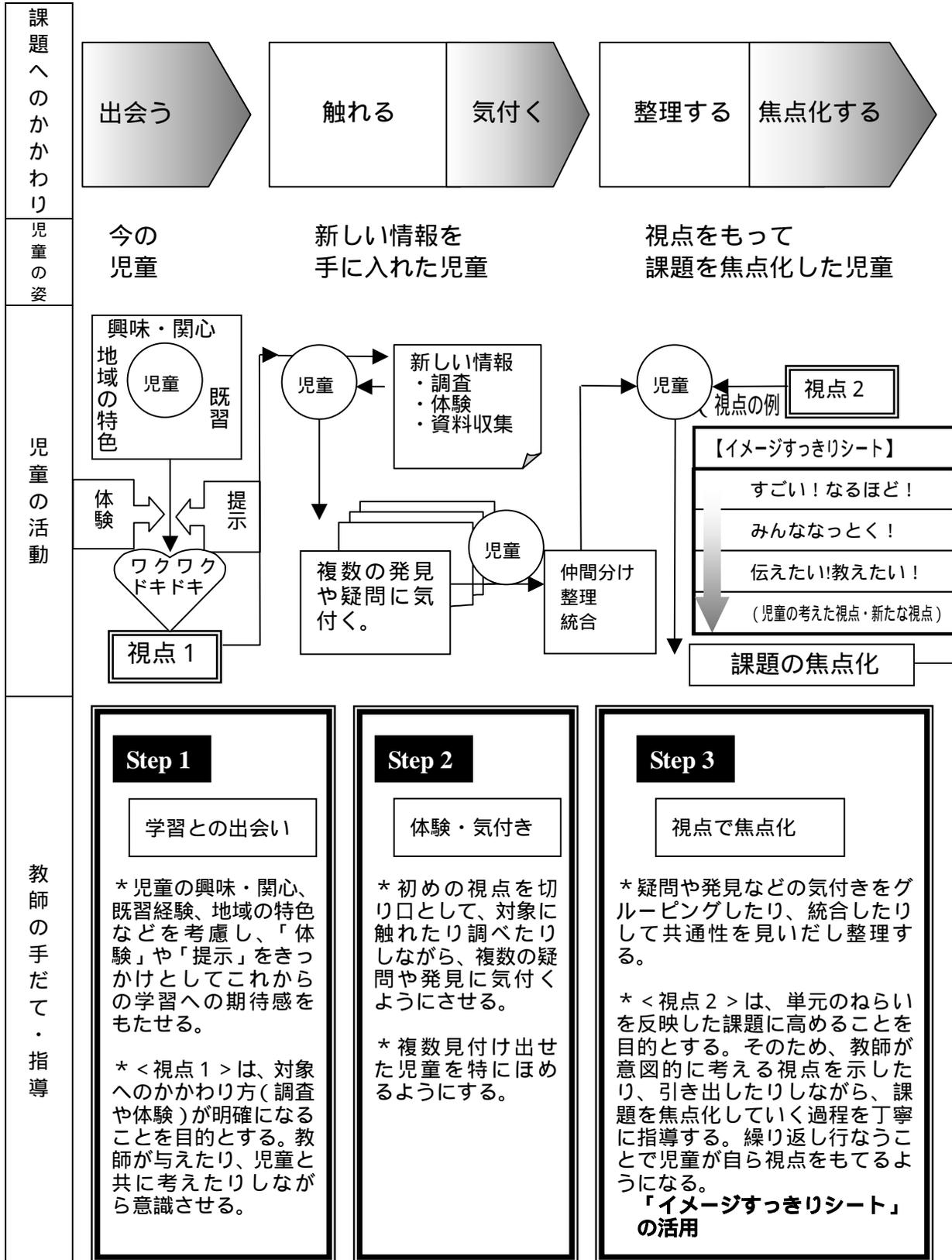
以上のことから、研究内容を「課題意識を高める課題設定場面の指導の工夫」、「追究活動の充実を図る情報収集と整理の工夫」、「イメージマップを活用した子どもの見取りと指導への生かし方」とした。

3 研究構想図



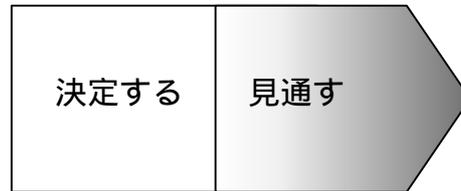
主題に迫るために

1 課題意識を高める課題設定場面の指導の工夫



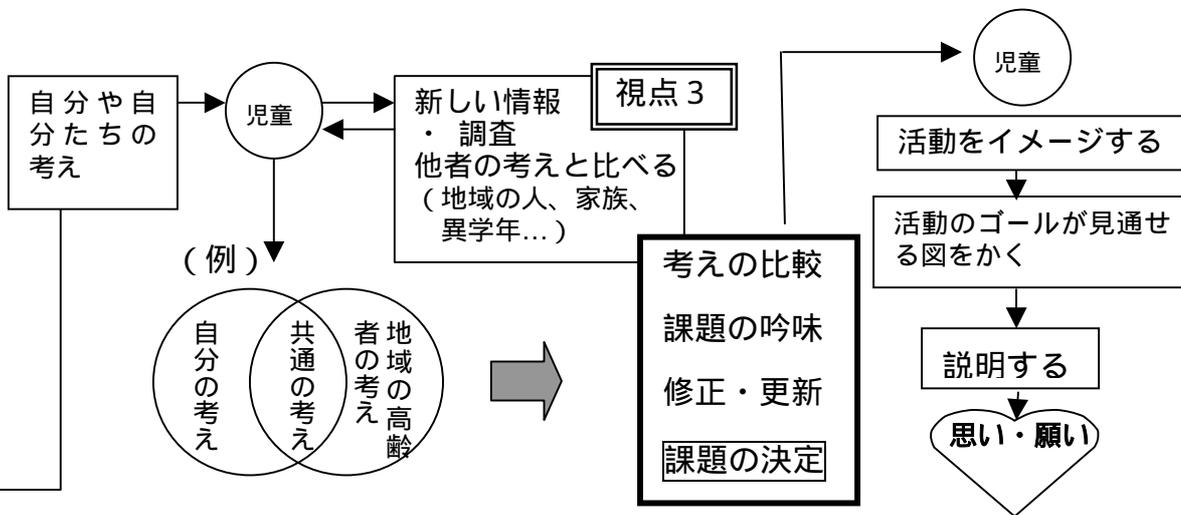


比べて考えることで
さらに課題意識が高まる児童



見通しをもっている児童

課題意識の高まり
追究活動へGO



Step 4

比較・吟味（修正・更新）

* アンケートを取ったり、インタビューしたりする活動を取り入れながら、他者の思いや願いに触れる機会を意図的に設定することで、新たな視点で課題を見つめ直させる。

* <視点3>の目的は、自分や自分たちの考えと共通するところや違いを見いだすなど、「比べて考える」という思考を習慣付け、より多くのデータから根拠を基に課題作りをさせるためである。

* 基になる自分の考えが書けなければ、比較ができないため、<視点3>はある程度課題が焦点化してから導入する。

Step 5

決定・見通し・説明

* なぜこの課題にしたのか、根拠を基に説明できるようにさせる。
(根拠 = 視点1、視点2、視点3、活動を通して新たに考えた視点)

* 今後の活動の大まかな見通しをもたせる。解決までの流れを図にしたり、文章にしたりして説明できるようにする。

2 追究活動の充実を図る情報収集と整理の工夫

たくさんの情報に触れ、つかむ段階で高められた子どもの課題への思いや学習の大まかな見通しを追究の段階でより具体化していくことが学習の実現につながる。そこで、追究段階において「情報を集め、整理する活動」を通して自分の学習状況を自分自身で見つめることで、追究活動に方向性をもち、課題解決の具体的な見通しをもつことが必要であると考えた。

そこで、次の四つを指導の工夫とした。これらは相互に関連し、追究活動を充実させることができる。

情報を集めるための工夫

学習の方向性を導く視点

子どもたちが、どんな視点で物事を見つめたらよいか、「五つの視点」を提示した。日常的に五つの視点をもって情報に触れ、見つけた情報を交流し合うことにより、情報を見付ける目を磨くことができ、追究活動における情報収集の方向性を導くことができる。

～「五つの視点」の例～

・感動 ・発見 ・驚き ・身近な ・役に立つ



集めた情報を整理するための工夫

情報の整理（イメージマップ）

- 集めた情報を「情報同士の関連」や「優先順位」などで整理し、これまでの活動内容を振り返る。
- 集めた情報を整理することで、自分のもっている情報量やさらに必要な情報、情報の価値を認識し、情報掲示板や情報マーケット、追究見通しシートへと発展させていく。
- 活動の修正、発展へとつながる。

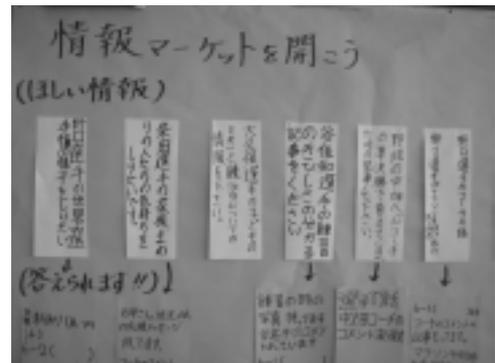
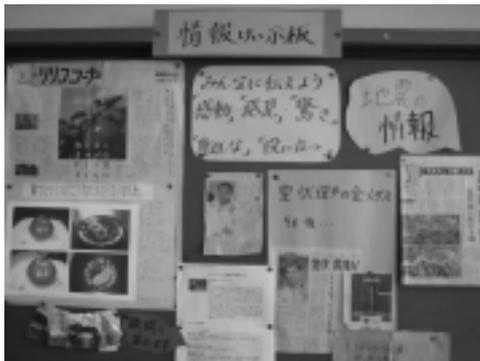
集めた情報を共有するための工夫

情報掲示板

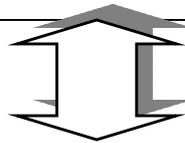
自分の見つけた情報を自由に発信し、友達同士で共有する場。

情報マーケット

自分が必要とする情報を友達に呼びかけ、提供してもらう場。



どちらも、友達とかかわりながら活動を進めることで、新たな気付きや意欲を生み出すことができ、より主体的な活動をすることができる。



追究の具体的な見通しをもつための工夫

追究見通しシート

学習のゴールへ向かって、子ども自身に、自分の活動に見通しをもたせたり、自分の思考を整理させたりすることができる。付箋紙を使い、自分の追究活動に必要なと思われることを付け足しながら学習を進めていく。

また、これらを教師が見取ることで、子どもの思考や、学習の状況を把握し、課題解決へ向けてより具体的な助言をすることができる。(P.19参照)

～付箋紙の例～

バリアフリーの公園の例を探す

資料を送ってもらう

さんからもらった資料をまとめる

分かったことから自分の考えをまとめる

視覚障害のある方への接し方を調べる

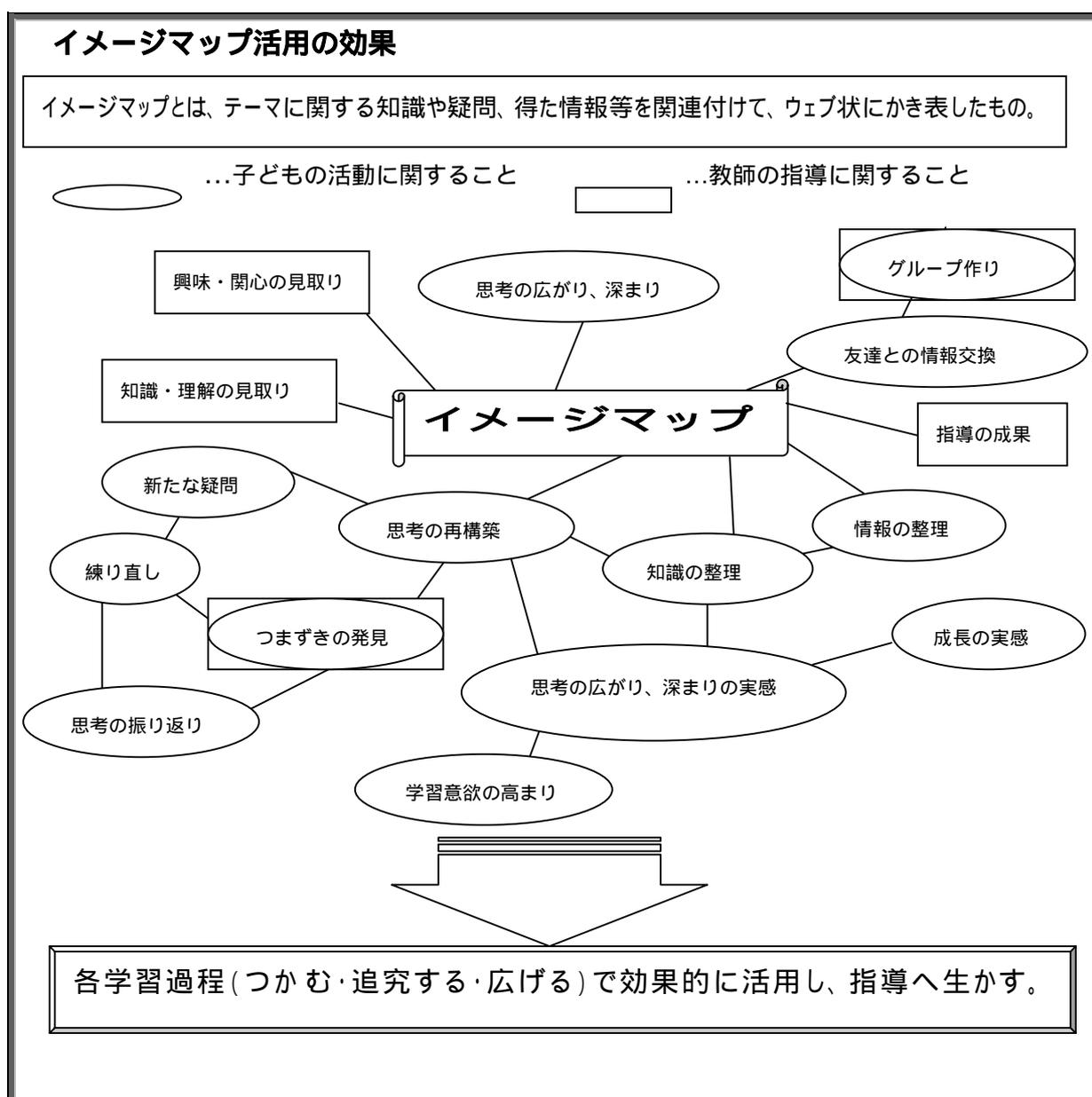
車椅子の介助の仕方を知りたい

3 イメージマップを活用した子どもの見取りと指導への生かし方

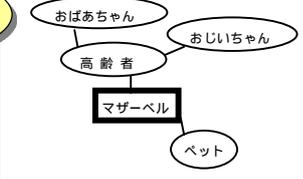
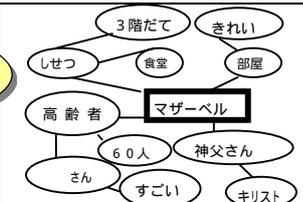
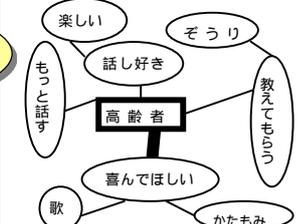
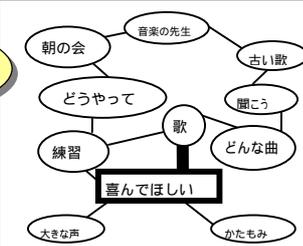
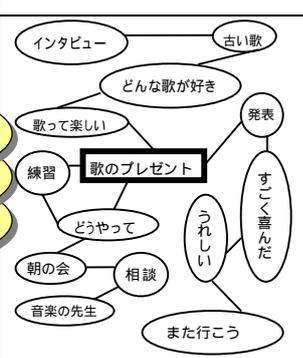
イメージマップをかくことにより、子どもは知識や得た情報の関連付けを自ら行い、整理することができる。また、イメージマップにかき表すことで、自分の思考の広がりや深まりを実感できる。そのことは、自分の成長の実感にもつながる。

さらに、教師は、子どものかいたイメージマップから、子ども一人一人の興味・関心の方向性や知識・理解の広がりや深まりを見取り指導へ生かすことができる。

各学習過程（つかむ・追究する・広げる）で効果的にイメージマップを活用し、子どもの思考を見取り、適切なタイミングでの指導や助言を行うことで、子どもは最後まで主体的・意欲的に活動に取り組むことができると考える。



イメージマップを活用した学習活動例 (第4学年・単元名「みんな友達! マザーベル!」)

<p>出会う 触れる・気付く 整理する・焦点化する か 比べる・吟味する む 決定する・見通す 追 究 する 発表 広 げ る 振り返り</p>	<p>イメージマップ1</p> <p>新しい情報 ・体験・見学 ・調査・資料 ・GTの授業</p>	<p>子どものイメージマップと教師の指導</p> 	<p>教師の見取り 指導</p> <p>子どもの学習課題に対する興味・関心の度合いについて知る。 子どもたちの興味・関心に基づいて、ねらいに迫るために「新しい情報」の内容を計画していく。</p>	
	<p>イメージマップ2</p> <p>新しい視点</p>		<p>新しい情報を得て、学習課題について興味・関心、考えが広がる。 『考え方が広まったね。』『どうしてこう思ったの?』</p>	<p>子ども一人一人の興味・関心、考えの広がり、発見したことを見取り、評価する。 評価することで子どもの意欲を高める。 新しい視点の項目を考える。</p>
	<p>イメージマップ3</p> <p>グループでの比較課題の吟味</p>		<p>『何をやってみたい?』 自分の興味・関心や考えを整理する。 『一番やってみたいところの線を太くしてごらん。』 疑問、解決方法なども盛り込んだマップを作る。 『分からない事も書いていいんだよ。』</p>	<p>新しい視点によって子どもが考えを深め、整理しているか読み取り、評価していく。 子どものマップを見ながらグループについての見直しをもつ。</p>
	<p>イメージマップ4</p>		<p>自分の考えと似ている子とグループを作る。 『マップを見せ合おう。』 グループでイメージマップを作り、追究活動の見直しをもつ。 『一番やってみたい事を分かるようにしよう。』</p>	<p>友達と協力し、グループのイメージマップを作成できたかを見取る。 一番調べたい事がはっきりしているか見取る。 追究活動が見通せるように指導する。</p>
	<p>イメージマップ5</p> <p>追究活動振り返り</p> <p>追究活動発表準備</p>		<p>活動記録としても使い今日の活動を振り返り、次につなげていく。 『こんな事もしたんだね。』『もっとやってみたい事は、何かかな?』 つまずいた時にマップを見直して、新たな道を見付ける。 『もう一度、マップを見てごらん。』</p>	<p>イメージマップから、子どもたちの追究活動を見直し、得た情報の整理できるように指導する。 つまずいた時はマップを見直して自分の活動を振り返り、新たな展開がないか考えるように指導する。 人とのかわりもマップに記入するように指導する。</p>
	<p>発表</p> <p>イメージマップ6</p> <p>自分の生活に生かす</p>		<p>他のグループの発表を聞き、課題についてイメージマップ作りを行い、自分の考えの広がりや深まりを知り、自己の成長を実感する。 『いろいろな事が分かったんだね。』</p>	<p>最初と最後のマップを比較して、子どもの考えの広がりや深まりを評価し、価値付け、認めていく。 活動を通して自己の成長を実感し、この活動で得た事を自分の生活に生かしていけるように指導する。</p>

実践事例

事例1 「課題意識を高める課題設定場面の指導の工夫」

単元名 「はっしん! ぼくらの西池袋」(第3学年)

(1) 単元について

本単元では、第3学年が総合的な学習の時間の入門期ということを考え、課題設定の流れをしっかりと身に付けさせたいと考えた。総合的な学習の時間は課題設定場面において、自分自身がそのテーマについて興味・関心をどれほどもち、意欲的に取り組めるかによってその後の学習が左右されてくる。そこで、本単元では「学区域のコマーシャルを作ろう」という、子どもが学習をするに当たって、興味をもって最後まで取り組めるような学習課題を提示し進めていくことにした。それによって、意欲も持続し、課題解決に対する必要感や、課題解決の過程での地域や友達とのかかわりや、地域に対する愛着も生まれてくるのではないかと考えた。

国語科・社会科等の教科、総合的な学習の時間において学んだ力を、この単元においても使うことができ、自分自身が確認し自己の成長を認めることができることによって、今後の生きる力につながっていくのではないかと考えた。

(2) 単元の目標

身近な地域から自分なりの視点で課題を見付け、コマーシャル作りの活動を通して、自分の考えを表現し、地域に愛着をもつことができる。

友達とかかわりながら今まで学んできたことを生かし、よりよい課題解決に向けて工夫することができる。

(3) 課題設定の段階の指導・評価計画(12時間/全40時間)

過程	学習活動	指導 評価 () 評価方法
出会う ふれる 気づく 整理する 焦点化する 比べる 吟味する 決定する 見通す	<p style="text-align: center;">学 区 域 の コ マ ー シ ャ ル を 作 る っ</p> <p>学区域のCMのテーマ選びをし、発表に向けての見通しをもつ。</p> <p>Step 1</p> <p>CM作りをすることを知り、見学の視点を作る。 (2時間) <視点1></p> <p>Step 2</p> <p>CMに必要な材料を探しながら町探検をする。 (4時間)</p> <p>Step 3</p> <p>「イメージすっきりシート」(P.14 参照)を使ってCMのテーマをつかむ。(4時間) <視点2> 視点を明確にし、「イメージすっきりシート」を活用して話し合いをする。</p> <p>Step 4</p> <p>自分たちの提案したテーマが他の人にも受け入れられるか、アンケートをとって比較する。 <視点3></p> <p>Step 5</p> <p>自分たちの作りたいCMの完成までの設計図を絵や文章で表す。 (2時間) CMを完成させるまでに必要なことを盛り込んだ設計図をかき、自分の言葉で説明ができるようにする。</p>	<p>学区域のCM作りをすることを知らせ、学習に意欲をもたせる。</p> <p>視点をもって町たんけんができるように、いつも視点を意識させる。</p> <p>自分たちの住む地域の中から、CM作りに必要なものを探ることができたか。 (発見カード・ふりかえりシート)</p> <p>みんなで作った視点に必要な視点を与えて、話し合いをさせる。</p> <p>テーマを焦点化できたか。 (イメージすっきりシート・発言)</p> <p>設計図をかかせることを通して発表までの見通しをもたせる。 なぜこの課題にしたのか説明できるように、今までの視点を意識するよう助言する。 発表までの見通しをもつことができたか。(設計図)</p>

(4) 「つかむ」段階の評価規準

観 点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む地域について、視点を持ちながら意欲的に調べてみようとする。 友達とよりよくかかわり合いながら、粘り強く取り組む。
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む地域の中で見つけた疑問や発見を、視点に基づいてグルーピングしたり、統合したりして共通性を見だし、整理することができる。 CMのテーマなどについて、自分の考えと他人の考えを比べて吟味することができる。
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> インタビューの仕方を理解し、テーマに必要なことをメモなどをしながら聞くことができる。【国語科との関連】 集めた情報に基づいて、アンケートを作成・集計し、必要な情報をグラフなどに表すことができる。【算数科との関連】 テーマに必要な情報を地図上または方角で示すことができる。【社会科との関連】
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む地域について、よいところがたくさんあることを知る。

課 題 設 定 場 面 ・ 五 つ の 指 導 の S t e p

出会う

Step 1 学習との出会い

T「まちのCMを作ろう」

T「まちの不思議を見付けに行こう」

児童の興味・関心、既習経験、地域の特色などを考慮し、「体験」や「提示」をきっかけとしてこれからの学習への期待感をもたせる。

<視点1>は、対象へのかかわり方（調査や体験）が明確になることを目的とする。教師が与えたり、児童と共に考えたりしながら意識させる。

子どもの姿

社会科や国語などの既習経験の中から、地域のCMにしたいと思う場所・物をイメージした。また、自分たちの知っているCMを出し合って、CMのイメージをつかみ、やってみたい・やりたいという気持ちの高まりがあった。

考 察

子どもが学習するに当たって、興味をもって最後まで取り組めるよう、「CM作り」という学習課題を提示し進めていくことで、次の活動への意欲の高まりが見られた。

触れる 気付く

Step 2 体験・気付き

C「先生、私の不思議どうですか？」
T「ほんと不思議！注目したところがいいね。」

C「先生！僕は五つ見つけたよ。まだまだありそう！」
T「たくさん見付けられてすごいね。どうしてそれにしたの？」

初めの視点を切り口として対象に触れたり調べたりしながら、複数の疑問や発見に気付くようにさせる。複数見付け出せた児童を特にほめるようにする。



子どもの姿

知っている場所・詳しく見てみたい場所・町を歩いて目にとまったものなど、発見カードにどんどん書き込みをしていく。

考 察

発見カードの視点が自分の中だけで完結してしまいがちな子どもがいる。次の視点の与え方の工夫により、相手意識をより明確にもたせることが重要になってくる。

整理する 焦点化する

Step 3 視点で焦点化



疑問や発見などの気づきをグループ핑したり、統合したりして共通性を見だし整理する。

<視点2>は、単元のねらいを反映した課題に高めることを目的とする。そのため、教師が意図的に考える視点を示したり、引き出したりしながら、課題を焦点化していく過程を丁寧に指導する。繰り返すことにより児童自ら視点がもてるようになる。

C「皆さんの不思議と僕の見付けた不思議は似ているなあ。」

T「イメージすっきりシートを使ってまちの不思議をしばらくもう。」

「イメージすっきりシートの活用」

子どもの姿

「イメージすっきりシート」で、自分の見付けてきたCMの材料をグループの友達に発表することを楽しんでいる。こだわりをもって選んだカードなので、その思い入れも強い。

考察

自分たちのテーマを絞り込んでいくことに、「イメージすっきりシート」を活用したことは、課題を焦点化させる上で有効だった。他の教科での活用も考えられる。視点をもたせて話し合いをさせることによって、話し合いの経験が少ない子どもたちにとっても、何について話したらよいのかが分かり、話し合いが活発になった。

イメージすっきりシート	
グループ	
まちを紹介するCMを作ろう。	
テーマ決定!!	
について	
話し合いの内容	調べてきたこと
4,自分たちで決めて話しあおう!	
3,伝えたい!教えたい!自慢したい!	
2,みんながなっとく!	
1,すごい!なるほど!	

比べる 吟味する

Step 4 比較・吟味(修正・更新)



地域住民にアンケートを取ったり、インタビューしたりする活動を取り入れながら、他者の思いや願いに触れる機会を意図的に設定することで、新たな視点で課題を見つめ直させる。

<視点3>の目的は、他者との比較である。自分や自分たちの考えと共通するところや違いを見いだすなど、「比べて考える」という思考を習慣付け、より多くのデータから根拠を基に課題作りをさせるためである。

自分に基となる考えがなければ、比較ができないため、<視点3>は、ある程度課題が焦点化してから導入する。

T「地域の人みんなの考えに賛成してくれると思う?」

C「私たちの不思議と地域の人不思議は少し違ったね。でも、なるほどって思った!テーマ少し変えたほうがいいかも」

子どもの姿

国語科等教科の時間でインタビュー活動の経験がある。アンケートを作って、自分たちの考えを他の人に聞いてもらったり、他の人の意見をインタビューで聞いたり、それを集計したりすることに、教科で学んだ力を発揮していた。

考察

自分たちのテーマに他者の考えを取り入れるという発想は、第3学年の児童では思い付かないこともあったので、方法や目的を丁寧に指導することで、意欲的に活動に取り組むことができた。

決定する

見通す

Step 5 決定・見通し・説明

なぜこの課題にしたのか根拠を基に説明できるようにさせる。(根拠=視点1、視点2、視点3、活動を通して新たに考えた視点)

今後の活動の大まかな見通しをもたせる。解決までの流れを図にしたり、文章にしたりして説明できる。



子どもの姿

友達との話し合いの内容も活発になってきた。自分たちの作りたいCMのイメージも膨らみ、次に行うことが子どもたちの考えの中から出てくるようになった。

考察

テーマを決定し、資料集めをしたり、取材活動を行ったりして、CMに仕上げ、それを発表するという見通しをもつようになってきた。

C「子どもから高齢者まで笑顔が見られる。だからこのテーマに決めました。」

C「次の時間は、地域の人の意見を参考にキャッチコピーを作ります。その次に、そのテーマに合った場所をデジカメラで撮影して、イメージすっきりシートを使って意見を…」

【教科等におけるイメージすっきりシートを使った活用例】

国語科「点字、手話について調べてみよう」 視点1...点字・手話について初めて知ったことを教科書から抜き出そう 視点2...興味をもったこと 視点3...みんなに伝えたい、教えたいこと	体育科「走り幅跳び」 視点1...先生からのポイント 視点2...練習でできたこと 視点3...練習でできなかったこと=今日の練習のテーマ
理科「星や月(2)」 月について調べてみよう 視点1...月についての情報を集める 視点2...興味をもったこと 視点3...みんなに伝えたい、教えたいこと	学級活動「お別れ会の計画」 視点1...こんなことやりたい 視点2...クラスみんなが楽しめる 視点3... ちゃんが喜ぶ遊び

【考察】

課題設定を丁寧に行うことについて

- ・今までの授業では、課題設定での丁寧な指導、学習が十分でなかったために、その後の学習の見通しが子どもたちにはっきり見えていなかったと考える。今回の授業では、課題設定過程を丁寧に指導することで、子どもたちがその後の学習の見通しをもつことができた。

「イメージすっきりシート」について

- ・たくさんの情報から自分の必要としている事柄を選択してまとめることができた。
- ・話し合い活動がスムーズにできなかった児童にとって、視点をもたせることで、話し合いが活発になった。
- ・子どもたちの思考が整理され、課題設定の根拠が説明できるようになった。
- ・自分の考えを深めるとともに、友達の意見を聞き、自分と比べることに役立った。
- ・自分たちの考えだけではなく、他者の意見も取り入れることで、視野の広がりがあった。
- ・追究活動においてもテーマ設定の段階で自分の考えが整理されているので、見通しをもつて活動を進めることができた。

事例 2 「追究活動の充実を図る情報収集と整理の工夫」

単元名「わたしがみつけた輝いている人～オリンピックにかける夢～」(第6学年)

(1) 単元について

オリンピックは、「人の生き方」「世界の国々のつながり・平和」についてなど、世界の中で生きる子どもたちを育てるために必要な学習内容を含んだ優れた学習材である。

子どもたちが、物の見方や考え方を広げていくために日頃から「五つの視点」をもって、新聞スクラップに取り組んでいる。新聞記者がリアルタイムで綴った生きた情報と、ゲストティーチャーとの触れ合いを通して、たくさんの人の生き方に会える学習とした。

輝いている人の生き方を追究する中で、自分を見つめ直し、自己のよさや課題を実感し、これからの生き方につなげていくことができると考える。

(2) 単元の目標

アテネ五輪にかかわった人々の生き方を知り自分の未来への夢と希望を膨らませる。新聞スクラップなど収集した情報から自分が共感する人物を見付け、その人の生き方を追究する。

調べた事や考えた事を相手に分かりやすく効果的に伝える。

オリンピックにまつわる人々の勇気や努力、苦労など様々な生き方に触れ、自分を見つめ直し、これからの生き方について考える。

(3) 「追究する」段階の評価規準

観 点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	人とのかかわりを通して見付けた視点や「五つの視点」を活用して、輝いた生き方について考えようとする。【国語科との関連】
思考・判断	輝いた生き方について自分なりの考えをもつことができる。【道徳との関連】
技能・表現	必要な情報のやりとりをし、輝いた生き方について調べた事や自分の考えの組み立てを工夫して伝えることができる。【国語科との関連】
知識・理解	輝いた生き方について理解することができる。

(4) 単元の主な流れ (総時数 21 時間) 【 具体的な手だて この単元での関連する力】

つ か む (8 時間)・ 追究する (9 時間)

オリンピックって何だろう。

- ・オリンピックの歴史や人々の願い、オリンピックがつなく世界の平和について話し合う。

オリンピックで輝いた人々の生き方を探ろう

- ・町に住む 80 歳のアテネ五輪聖火ランナー、車椅子のテニスプレーヤーの方のお話を聞き、輝いている人の生き方を知る。
- ・新聞スクラップを基にして、輝いている人を見付け、その人の生き方を追究する。

情報マーケット・五つの視点・情報掲示板

国語科「相手に分かりやすく効果的に伝える」

広げる (4 時間)

自分なりの生き方について考えよう。

- ・輝いている人の生き方から、これからの自分に生かしていきたい事を話し合う。
- ・学んだ事を生かして十年後の自分への期待や願い、思いを膨らませて自分への手紙を書き、生きていく力をもつ。

情報を集めるための工夫 ～学習の方向性を導く視点の活用～

<子どもの姿>

オリンピックをテーマに「感動」「発見」「驚き」「身近な」「役に立つ」という五つの視点で、継続して新聞スクラップを行った。「人の生き方の輝き」についてメダリストの勇気や努力には着目していたが、広い視野でとらえられていなかった。

<教師の手だて>

教師がゲストティーチャーにインタビューする形式で、輝いている生き方を見付ける視点を子どもたちにつかませていった。
輝いている人とは...「好きなことに情熱を注いでいる」「楽しんでいる」「工夫次第で困難も乗り越えられる」「人に支えられている」「感謝」「自立」「思いやり」
(児童の反応)

視点の広がり

<活動の変容>

ゲストティーチャーの話から「支えてくれる周囲の人とのかかわり」「これからの自分に役立てたい事」という新たな視点をつかんだことにより、スクラップした記事を読み直して輝きをとらえ直したり、メダリスト以外の人々にも目を向けてさらに資料を集めたりする姿が見られた。



【情報量と内容の充実が実感できるスクラップ帳】

視点の広がり・積み重ね・情報の充実

集めた情報を整理し、共有するための工夫

～集めた情報を整理することを通して、学習の見直しをもった例～

自分の収集した情報を把握し、輝いている人の生き方を焦点化してとらえるために集めた情報を振り返り、整理する活動を行った。次の三つの反応が児童からあった。

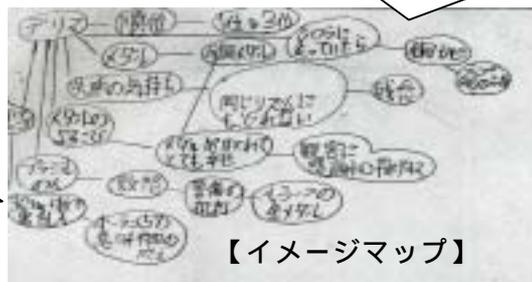
<子どもの姿>

必要な情報の厳選

「たくさんある情報のどれを使ったら輝きを伝えることができるかな。」

追究可能かどうか吟味する

「輝きを考えるには、資料が少ないなあ。」



【イメージマップ】

さらに必要な情報を具体的につかむ

「選手の努力を伝えるには子どもの頃のエピソードを知りたいな。」

<教師の手だて>

の児童への指導 ……

ゲストティーチャーから学んだ視点を想起させ、「輝き」をキーワードで見付けさせた。そのキーワードを基に、必要な情報を選択するよう助言した。

情報を共有する場の設定
の児童への指導 ……

情報マーケットや情報掲示板を活用して子ども同士の支援が実現できる場を設定した。さらに必要な情報を収集できるよう、教師が次のような指導を行った。

- オリンピック前の記事を探すよう促す。
- オリンピックのリンク集を紹介する。
- 教師のスクラップ帳から資料を提示する。
- 友達の視点やゲストティーチャーから学んだ視点を提示する。

<活動の変容>

情報マーケットで友達からもらった「選手が子どものころから走ることが好きだった」というエピソード、ゲストティーチャーや友達の情報から見付けた視点など、情報が充実していった。この人の努力を支えているのは「自分の好きな事を見付けて楽しんでいる気持ちである」というように、その人の輝きを深く掘り下げていった。



【情報を厳選し自分の考えを整理した新聞】

事例3 「追究活動の充実を図る情報収集と整理の工夫」

単元名 「めざせ！住みよいわたしたちの町～自分に何ができる？
人にやさしい町づくり～」(第6学年)

(1) 単元について

福祉の視点で町を見つめながら、障害のある人、高齢者など、いろいろな立場の人と触れ合う中で、様々な人々と共に生きるとはどういうことなのか、自分に何ができるのかということ、学ぶ単元である。体験を通して、地域から学び、保護者や地域の協力を得て学習を進めるとともに、自分自身を見つめ、地域に発信していく。

追究場面では、家族や地域、区役所などに働きかけ、取材した。地域のためにバリアフリーや自分にできる事を考え、人にやさしい町づくりについての主張文を書いたり、地域のよさをアピールしたりした。学習を通して地域により一層の親しみを持ち、今後の自分の生活につなげていく。

(2) 単元の目標

福祉の視点で自分の住んでいる町に興味・関心を持ち、自分の課題をもつ。

課題解決のめあてをもち、見通しをもって課題を追究し、自分なりの考えをもつ。

地域や人とのかかわりを通して、自分や相手のよさ、地域のよさに気付くことができる。

人にやさしい町にしていくための自分の考えを発信し、地域を大切にしようとする。

(3) 「追究する」段階の評価規準

観 点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	自分の課題に興味をもって解決しようとしている。 進んで人とかかわり、人から学ぼうとしている。【国語科との関連】
思考・判断	自分の立てた学習計画に沿って見通しをもって解決しようとしている。 様々な人から学ぶ中で、自分や相手のよさに気付く。【道徳との関連】
技能・表現	自分の思いや願いの実現に向けて、資料等から必要な情報を集めることができる。【社会科との関連】
知識・理解	福祉について自分なりの考えをもったり、考えを広げたり深めたりできる。

追究の具体的な見通しをもつための工夫

～自分の「ゴール」を意識することで、追究に具体的な見通しをもった例～

追究見通しシートの作成と活用

学習のゴールを提示することにより、そこに向かうためにしなければならない事を子ども自身が見つかることができる。さらに、追究過程で出てくる新たな疑問や問題をシートに加えることで、追究の見通しをもったり、自分の思考を整理したりすることができる。

その際、子どもに、「何のために追究しているか」ということを意識させるような指導が大切になるが、このシートを見ることにより子どもの思考の流れを読み取ることができ、目的を意識させる指導や追究が滞っている子どもへの助言の手助けとなる。

<子どもの姿> 課題：商店街のバリアフリーについて

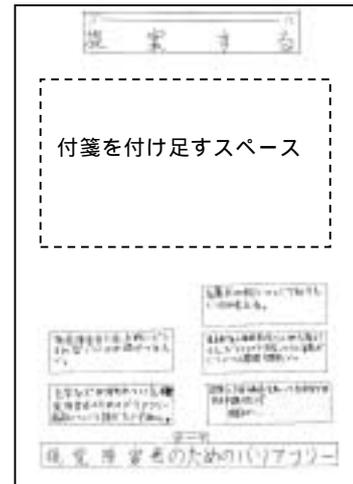
課題は決まったが、具体的に自分が調べたい事や調べる目的などが十分につかめず、追究活動が滞っている。

<教師の手だて>

「自分の意見を区役所に提案する」という具体的な活動のゴールを示し、シートを作らせた。シートを見取り、足りない情報やなぜその情報が必要なのかを考えさせ、助言した。

<活動の変容>

地元の商店街と、バリアフリーを推進している商店街を比較したいと考えるようになった。追究の見通しをもたことで、日記にも「次に何をやるのかが分かると楽しいということが分かった。」という記述が見られ、活動も意欲的になってきた。



追究見通しシートの例 (P.9 参照)

【 考 察 】

1 情報を集めるための工夫

「五つの視点」や情報量を実感できるスクラップ帳を活用したことにより、継続的な情報収集ができ、子どもの興味・関心が高まっていった。学習材を身近に引き寄せ、今後の展開に必要な視点をもたせたことが、追究活動の方向性を導いたと考える。視点の内容については、十分に吟味する必要がある。

2 集めた情報を整理するための工夫

自分の集めた情報を振り返り整理することを通して、三つの活動が子どもの中でなされていった。

今ある情報量を認識し、追究可能な課題かどうか吟味する。

課題解決のためにもっと必要な情報を具体的につかむ。

その人の輝きを伝えるために必要な情報を厳選する。

これらの活動の充実によって子どもの思考が整理され、情報を共有する活動に生かされていった。

3 集めた情報を共有するための工夫

情報を共有する場の設定は、子どもの情報を見付ける力を磨き、子ども同士の活発な情報のやりとりを生み出すことができた。必要な情報を取り入れることにより、意欲的な追究や自分の考えを深めていく姿につながった。

4 追究の具体的な見通しをもつための工夫

学習の「ゴール」を意識させることで、子どもはそのため必要な情報を具体的に考えることができ、追究の内容に見通しをもつことができた。また、教師は、子どもが見通しをもって追究しているかどうかを把握でき、そうでない子どもに対して、具体的な指導ができた。

事例4 「イメージマップを活用した子どもの見取りと指導への生かし方」
単元名 「羽村のいいところ、知らせ隊」(第3学年)

(1) 単元について

羽村東小学校の学区域には、昔から残されている物や新しく作られた物が混在しており、社会科での地域巡りの中でも「もっと調べてみたい」という児童の声が多い。しかし、児童はあまり羽村のことを詳しくは知らない。そこで、ゲストティーチャーの話の聞いたり、地域探検をしたりする中で、イメージマップを活用しながら自分の課題を設定し、追究していくようにした。自分たちでどんな人に知らせたいかを決め、目標をもたせることで意欲をもって追究活動ができるようにし、羽村のいいところをもっと知り、みんなに知らせていこうとした。そして、活動を通して地域により一層の愛着をもち、今後の自分の生活につなげていけると考えた。

(2) 単元の目標

自分なりの思いをもち身近な地域から課題を見付け、みんなに知らせたい事を表現し、地域に愛着をもつことができる。

友達や地域の人とかかわり合いながら、今まで学んだ事を生かし、よりよい課題解決に向けて、工夫することができる。

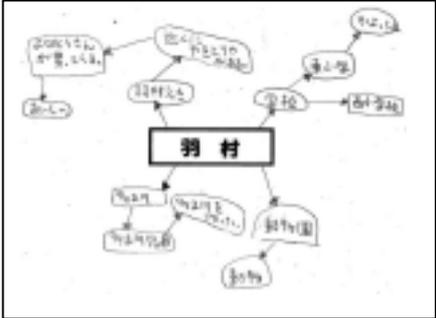
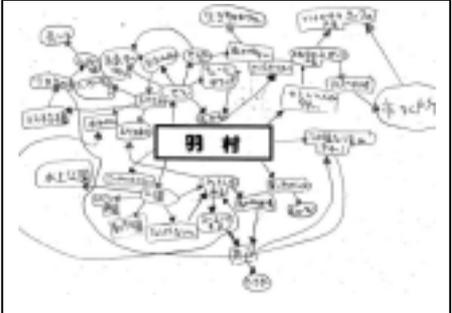
(3) 課題設定の段階の指導・評価計画 (12時間 / 全28時間)

過程	学習活動	指導 評価 () 評価方法
つ か む 12 時 間	わたしたちの住む羽村のいいところをみんなに知らせよう	
	自分の課題を明確にし、見通しをもつ。	課題解決に向けて、見通しをもった計画を立てることができたか。(イメージマップ・振り返りシートなど)
	「羽村」から思い付いたことを第1回のイメージマップに表し、だれに伝えたいかを話し合う。(2時間)	理由をはっきりさせて伝えたい相手を決めさせる。
	身近な人にインタビューしたり、興味をもった事を調べたりする。(2時間)	意欲的に取り組んだか。(児童観察) 記録を取り、残していく。
	地域を歩いたり、ゲストティーチャーの話の聞いたりする。(3時間)	新たな視点を与え、記録を基に、イメージマップに表すように指導する。
今まで学んだ事を基に、第2回のイメージマップを作成し、自分の課題を選ぶ。(3時間)	教師が個別に聞き取りをして、最後までを見通せる課題にさせる。	
似ているテーマでグループに分かれ、グループのイメージマップを作り、活動計画を立てる。(2時間)	理由をはっきりさせて課題を選ぶことができたか。(ワークシート・聞き取り) 興味・関心を重視する。	
		グループで課題解決に向けて見通しがもてたか。(イメージマップ・聞き取り)

(4) 「つかむ」段階の評価規準

観 点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む地域について、いいところを意欲的に調べようとする。 友達とよりよくかかわり合いながら、取り組もうとする。
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> イメージマップを基に自分の考えを整理し、深める。 自分たちの住む地域の中から伝えたい事を見付け、興味・関心に基づいてグループを作り、追究活動の見通しをもつ。【社会科との関連】
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> インタビューの仕方を理解し、テーマに必要な事をメモしながら聞くことができる。【国語科との関連】 集めた情報を基にしてイメージマップを作成し、自分の考えを表現することができる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む地域について、よいところがたくさんあることを知る。

イメージマップを活用し、指導に生かした実践例（つかむ段階）

イメージマップ	指導への生かし方
<p>導入段階に作成した「羽村」をキーワードとするマップ</p>  <p>【教師の見取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 思い付いた考えを順に並べている。さらに広げたり関連させたりできる。 	<p>すでにもっている知識の確認をし、子どもの視野を広げる。</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 「もっと地域を歩いてみよう。」 「身近な人に取材しよう。」 (インタビューの仕方・メモの取り方) 「調べてみよう。」 (視聴覚機器の使い方・調べ学習のやり方)
 <p>【教師の見取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導の効果が表れている。 考えが広がり、つながりが出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の人に話を聞こう。」 (話の聞き方・質問の仕方)

つ
か
む

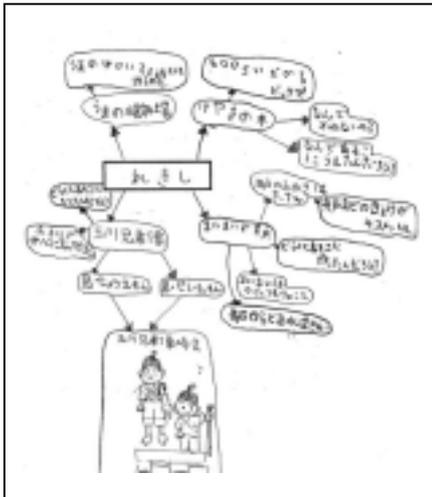
クラスで作成した「羽村のいいところ」マップ



多くの考えやアイデアを明らかにし、共有化することで、視野を広げる。

- ・「みんなでマップを作ってみよう」
(情報収集の方法・整理の仕方・マップの作成の仕方の確認)

グループで作成した自分たちの課題マップ



【教師の見取り】

- ・グループになることで考えが深まり、疑問点も出てきた。
- ・追究方法はまだ考えていない。



テーマを広げ、深め、整理し、絞り込ませる。

- ・「似ているテーマでグループになってみよう。」(情報交換の仕方)
- ・「分からないことや、やってみたいこともかいてみよう。」

子どもに学習の見通しをもたせる。

- ・「イメージマップを基に活動計画を考えよう。」

【考察】

マップを使うことで教師が子どもの思考を視覚的に見取ることができた。

- ・記録の仕方の工夫(線の太さ、色分けなど)により子どもが重視している課題や疑問を見取ることができた。
- ・作る目的をはっきりさせたり、効果的な中心のキーワードを選んだり、発達段階、個人差やグループに応じたマップ作成の指導の工夫をしたりする必要がある。
- ・マップだけでなくワークシート、振り返りカードなども併せて使うことで、よりよい指導に生かすことができる。

マップを見取ることで、指導計画を立てたり、修正したり、個に応じた指導をしたりすることができた。ただし、タイミングを捉えた的確な助言を計画的に行うことが大切である。子ども自らが思考を広げ、深め、整理するものとして、また学習の振り返り、活動記録、自己成長の把握するものとして、マップを活用することができた。

研究の成果と今後の課題

本研究では、子どもが学習意欲をもち続け、思考をよりよく働かせるための指導の工夫の在り方に重点を置き研究を進めてきた。以下、研究の成果と今後の課題について述べる。

1 研究の成果

- (1) 「つかむ」「追究する」の学習過程で、ねらいに沿った視点を教師が与えたり、子どもに考えさせたりすることで、子どもが学習の方向性を意識して学習を進めることができた。

「つかむ」段階では教師が子どもに大きな視点を与えた。課題設定の際、子どもの願いや思いを大切にしながら、学級の視点を絞り込んでいくことにより、学習を共有化することができた。

イメージすっきりシートで視点を与えることによって、子どもたちの思考が整理され、論理的思考ができるようになった。

「追究する」段階における情報を集めるための視点は、情報収集の方向性を導いたことはもちろんだが、それだけでなく、新たな自分なりの視点を見付け、その後の活動を自分自身で深めていく姿につながった。

- (2) 「つかむ」「追究する」の学習過程において、学び方を学ばせる場を意図的・計画的に取り入れることで子どもは学び方を身に付けることができた。それにより、子どもは学習に見通しをもつことができ、学習意欲を持続させることができた。

子どもは「つかむ」の段階で課題設定の過程を丁寧に学んだことで学習の進め方が分かり、その後の「追究する」段階で自信をもって、意欲的に活動することができた。また、各教科の学習において、計画的に調べ学習を進めたり、理由をもって活動のめあてを考えていたりする姿も見られた。

「追究する」段階では、情報の収集・整理の仕方を学んだことで子どもは自分の活動を振り返り、その後の活動に見通しをもつことができた。

- (3) 教師が一人一人の子どもの学習内容や学習状況を見取ったことを基に、適切な指導をすることが、生きて働く力につながった。

それぞれの学習過程のイメージマップから子どもの活動や思考、つまづき等を見取り、追究方法や解決方法などを教師が具体的に指導することにより、活動を充実させ、思考をよりよく働かせることができた。それにより、子どもは学んだ力を発揮しながら、課題解決へと向かうことができた。

2 今後の課題

- (1) 「生きて働く力」の適切な評価

子どもが各教科等で学んだ力を総合的な学習の時間に発揮している姿を明確に評価する手だてについて、さらに研究を進めていく必要がある。

- (2) 「広げる」段階における「生きて働く力」を育てる学び方の指導

「広げる」段階においても、子どもの活動がより充実し、学んだ力をより発揮できるような指導の工夫について、具体的な手だてを検討していく必要がある。

参考資料 児童用チェックリスト

(この中から選択して、振り返りカード等に活用する。)

課題作り

1. 課題を作るとき、自分のやりたい気持ちを大切にした。
2. 課題を作るとき、十分に時間をとってじっくりと考えた。
3. 課題を作るとき、直接見たり、聞いたり、体験したりして考えた。

調べ学習

4. 調べてみたい事柄について、調べる方法をあれこれ考えてやってみた。
5. 調べてみたい事柄について、予想を立てた。
6. その場に行き、見たり、聞いたり、確かめたりした。
7. 自分で調べ、まとめた。
8. 仲間といっしょに調べ、まとめた。
9. 調べるときに本や図鑑やパンフレットなどを使った。
10. 調べるときにコンピュータを使った。
11. 調べるときに人に会って話を聞いた。

課題追究 (意欲、調べ方、情報の整理等)

12. 自分で調べ、活動できた。
13. 投げ出さずに最後まで取り組めた。
14. 新しいチャレンジができた。
15. 分からないことをそのままにせず、質問したりした。
16. 見通しをもった計画を立てた。
17. 課題に対していろいろな方法を考えた。
18. 調べるときにいろいろな方法を考えた。
19. たくさんの中から必要な情報を選べた。
20. 情報を整理できた。
21. 情報に対して自分の考えをもてた。

話し合い

22. 自分の考えをはっきり言えた。
23. 楽しく相談できた。
24. 自分の考えと友達の考えを比べた。
25. 友達の活動について意見を言ったり、アドバイスをしたりした。

人とのかかわり

26. 自分からきちんとしたあいさつができた。
27. 礼儀正しく接することができた。
28. 周りの人に自分から働きかけた。
29. 人の生き方に興味をもった。
30. 友達のよさに気付くことができた。

発表

31. 学習した事を自分やグループで考えた方法で発表した。
32. 学習した事を分かりやすく発表した。
33. 自分の考えを分かりやすく伝える工夫ができた。

生かす

34. 振り返りカードなどで自分の活動を振り返り、さらに次へと役立てた。
35. 友達活動を見て、良いところを自分の活動に取り入れた。
36. 友達や先生のアドバイスを自分の活動に役立てた。

教科との関連

37. 教科などで学習した事を総合的な学習の時間の中で使った。
38. 教科の学習のよさを感じた。

振り返る、生き方を考える

39. さらに良い方法を考えることができた。
40. 自分のよさが分かった。
41. 自分の直した方がよいところが分かった。
42. 自分の成長や身に付いた力に気付いた。
43. 社会や人のためにできることをしたいと思った。
44. 自分の将来について考えるようになった。
45. 自信をもって取り組めるものがはっきりした。

児童用チェックリスト(例)

きょうのふりがえりカード	
名前 _____	
ひょうか	
自分だけをつくるとき、自分のやりたい気もちも大切にした。	④ 3 2 1
自分の考えをはっきり言えた。	4 ⑤ 3 1
楽しくもうでんできた。	④ 3 2 1
自分の考えと友だちの考えを比べた。	4 ⑤ 3 1
友だちのよさに気付くことができた。	④ 3 2 1

④→とてもそう思う ③→そう思う ②→あまり思わない ①→思わない

ほかに「なぜや」「なるほど!」「おもしろい!」と思ったことがあったら書いてね。
 21はなかなかいいアイデアを思いつくことができた、と思った。



子ども

- ・自分の活動を振り返ることができる。
- ・次の活動のめあてになる。

教師

- ・指導についての自己評価ができる。
- ・子どもの活動を見取るヒントになる。

平成16年度

教育研究員名簿

世話人

副世話人

地区	学校名	氏名
新宿	落合第四小学校	大庭 亮介
品川	大原小学校	大宮 腰久佳
大田	大森東小学校	松葉 久嗣
杉並	東田小学校	三田 大樹
豊島	池袋第三小学校	佐藤 綾子
北	王子第一小学校	江崎 一紀
足立	東加平小学校	杉田 綾美
足立	足立入谷小学校	上田 智恵子
①飾	東金町小学校	堀内 康博
江戸川	平井第二小学校	梅田 浩章
八王子	美山小学校	荒井 雄一
立川	松中小学校	国澤 太郎
小平	小平第六小学校	安江 香世子
羽村	羽村東小学校	日吉 英智
西東京	碧山小学校	小泉 ひとみ
三宅	阿古小学校	大神田 信教

担当 東京都教職員研修センター 統括指導主事 菊井 道子
東京都教職員研修センター 指導主事 栗原 健

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社